

美術科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 谷田 恵実

1 対象・日時 1年B組 令和6年11月22日(金) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩，質感や量感などの性質や，それらが感情にもたらす効果などについて理解している。 ②造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ③粘土や様々な材料や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表わしたり，制作の順序などを考えたりしながら，見通しをもって表わしている。	①自分の内面を見つめ，感じ取った形や色彩の特徴や美しさを基に，自分が感じた感情から主題を生み出し，全体と部分との関係などを考えながら創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。 ②造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を広げている。	① 美術の創造活動の喜びを味わい，楽しく，感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に，粘り強く取り組もうとしている。 ② 造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げようとしている。

3 題材「感情のカタチ」について

「豊かな感性や情操を培う」ためには，自らの体験や経験から感じた事を味わい，表現の楽しさや美しさを味わったりしながら，それらが価値のあるものだ実感することが必要である。本題材では，生徒が自分の感情に向き合い，材料から生まれる表現を楽しみながら感性を豊かに働かせ，自らの価値を見出す学習を目指す。主題に向き合うための手立てとして，自分の感情が表に現れた場面や出来事を振り返ったり，粘土から生まれる表現と向き合ったりしながら主題を設定することで，目に見えない内面の感情を造形的な視点で捉えて表現していく。指導する際には，「“怒り”だから赤，赤いから炎をつくる」のように，単純な具象の形を表現する活動ではなく，内面から湧き上がる感情などを形や色彩などの造形的な視点で捉えて表現することができるように，自分の心の動きに向き合いながら制作することを抑えて指導する。

また，今回の題材では，形や色彩のない感情と向き合うことで，感情に対しての捉え方を広げることもねらいとしている。複数の感情が混ざりあっている様子や，見る角度によって印象が変わる作品を表現するなど，様々な見方・考え方が作品として表れることを目指す。それらを作品として目に見えるものに表現してみてどう感じるのか。制作や鑑賞の活動を通して実感をもって学ばせたい。

題材から設定した問いは「感情とはどのようなものだろうか。表現することや鑑賞することを通して考えよう」である。感情とはどのようなものなのか，目に見えない感情を作品というカタチに表す活動を通してどのような事を感じるのか，表現することの効果や意義，美術のよさや美しさなどについて概念的に問いながら考えを広げたい。

4 生徒の学びの履歴

第1学年の生徒は，作品制作に対して意欲的で，絵具や鉛筆などから生まれる表現を楽しみ，自分の感じた印象を素直に表現しようとする生徒が多い。また，見通しをもって時間内に制作することや制作の過程で感じたことを大切にするように説明した際には，「学びのプラン」に明示した学習のポイントや汎用的なスキルについて，内容をよく確認しながら学習する姿も見られた。しかし，自分の表現を味わったり作品を鑑賞したりする際には，別のものに見立てて楽しむなど，表現や考え方の広がり課題がある。今回は，感情を表現する活動を通して「表現を追究する力を培うこと・じっくり向き合っ感じる力を培うこと・自分の考えを広げることをねらいとした。表現を模索する中で感性や感覚を磨き，感情に対しての様々な表れを知ることで，美術の表現のよさや美しさを味わう力を育み，見方・考え方を広げることを目指す。

5 資質・能力育成のプロセス（7時間扱い、本時 は5時間目）

次	時	評価規準（想定する「Bと判断する状況」）	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1	知 形や色彩、質感や量感などの性質や、それらが感情にもたらす効果などについて理解している。(○) 思 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げている。(○)	【行動の観察】 【ワークシートの記述の確認】 C：造形的な視点を確認する。 【行動の観察】 【ワークシートの記述の確認】 C：共有した意見を基に思考を広げ、作品をじっくり鑑賞しながら考えるよう促す。
2	2 3	思 自分の内面を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考えながら創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(◎○)	【行動の観察】 【ワークシートの記述の確認】 C：自分が感じている感覚や印象を振り返り、ワークシートを活用しながら考えるよう促す。
3	4 6	思 全体と部分との関係などを考えながら創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(○) 態 楽しく、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動を工夫して取り組もうとしている。(○) 技 粘土や様々な材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表わしたり、制作の順序などを考えたりしながら、見通しをもって表している。(◎) 知 全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。(○)	【行動の観察】 【制作中の作品】 C：表現したいことを確認し、話し合いながら表現を考えるよう促す。 【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】 C：制作しながら気づいたことや感じたことを確認し、改めて作品を観察しながら考えるよう促す。
4	7	思 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げている。(◎) 態 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動を工夫して取り組もうとしている。(◎○) 態 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げようとしている。(◎○) 知 感情にもたらす効果について理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。(◎)	【ワークシートの記述の分析】 C：作品と向き合い、主題との繋がりを考えたり、造形的な視点から見たりして考えるよう促す。 【行動の観察】 【振り返り・まとめの記述の分析】 C：毎授業の最後に行った振り返りの内容を確認し、感じたことを表すよう促す。 【振り返り・まとめの記述の確認・分析】 C：制作を振り返って考えるよう促す。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> ・「学習プラン」を用いて、題材の見通しをもつ。 ・題材を通して考える問いを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>【題材のテーマ】 様々な感情をカタチに表そう。</p> <p>【題材からの問い】 感情とはどのようなものだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・【題材からの問い】を記入する。 ・個人で自分の感情が表れた場面や経験について振り返る。 ・個人で、自分が感情から感じる色彩や、感情から感じる形について考え、ワークシートに記入する。 ・ワークシートの内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の流れを確認し、見通しをもたせる。 ・【課題(題材のテーマ)】から、題材を通して考えることを確認させる。 ・「○○が嬉しくて声が出た」「○○に感動して胸が熱くなった」等、感情の前後の出来事についても具体的に説明する。 	1
<ul style="list-style-type: none"> ・班で作品を鑑賞し、作品から感じる感情や印象などについて考える。 ・制作の基本的な手順を学び、粘土で様々な表現を制作し、試しながら考える。 ・様々な道具を使い、形や質感を生み出す。 ・制作した形を撮影し、PowerPointに貼り付ける。 ・粘土を鑑賞しながら、主題となる「どんな気持ちの自分を作品として表現するか」を決め、作品のイメージをワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点で鑑賞するように指導する。 ・材料と触れ合い、色々な技法を活用しながら制作していくことが大切であることを説明する。 ・様々な表現を楽しみながら味わうよう促す。 ・他クラスの生徒が制作した形も参考にする。 ・内面と向き合いながら記述するよう促す。 	2 3
<ul style="list-style-type: none"> ・粘土を使って制作する。どのような表現が効果的か追究しながら制作を進める。 ・制作しながら感じたことや考えたこと、表現を追究したところなどをワークシートや授業の振り返りに記述する。 ・材料や用具を安全に、工夫して使う。 ・時間内に制作できるよう見通しをもって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の活動の中で新たに気付いたり、変化したりしたところは、ワークシートに書き足すようにする。 ・粘土の特性を理解した上で、主題を効果的に表現する為に他の素材が必要であると感じた時は、教員と相談する。 	4 6
<ul style="list-style-type: none"> ・作品を鑑賞し、作者の言葉を聞きながら作品のよさや美しさ、魅力について考える。 ・制作過程を振り返りながら、【題材からの問い】へ考えをワークシートにまとめ、意見を共有する。 ・様々な意見から考えを広げる。 ・これまでの学習活動を振り返り、ワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作した自分が感じたことを基に、多面的多角的な視点で考えを広げるよう促す。 	7

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

美術のよさを味わいながら、主題を表現するために試行錯誤を繰り返したり、材料から感じたことや気づいたことなどを生かして表現しようとしたりするなど、粘り強い取組を行う姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

材料の特性や、形や色、質感や量感などが感情にもたらす効果を理解し、それらをどのように活用しているかを実験・スケッチの記述や作品から評価する。作品を評価するにあたっては、作品制作後の振り返りの記述と合わせて、どのような意図をもって活用したかや見通しをもって表しているかについても合わせて評価する。また、作品を全体のイメージで捉えながら理解しているかは、制作や鑑賞のワークシートや活動の様子から見取る。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

造形的な視点を働かせながら、材料から生まれる表現を味わい、主題となる感情を表現するために考えを広げている姿を評価する。主題を決めるまでの学習では、ワークシートやスケッチなどから、自分の感情と材料から感じたことを関連させながら考え、イメージを広げている様子を見取る。主題を決める場面では、その時点でのおおまかな作品のイメージや主題への考えをまとめ、作品の方向性をある程度定めておき、その後の制作で新たに感じたことを追記することで、より効果的な表現方法について追究する様子や生徒の変容を見取る。

鑑賞の活動では、造形的な視点を基に「知識・技能」との繋がりを考えながら、作品から感じた感情のイメージなどについて、具体的な言葉で記述するようにする。鑑賞した作品の作者のねらいや、その作品に対しての他の生徒の意見を聞いたり読んだりすることで、様々な鑑賞の視点や感じ方に触れ、そこからどのように自分の考えを広げているかを、生徒の姿やワークシートの記述などから評価する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

主題を表現するために材料と向き合っている姿や試行錯誤しながら粘り強く取り組む姿を見取りながら、題材の振り返りなどの記述と合わせて一体として総合的に評価している。毎回の授業ごとの振り返りは、色別に分けた付箋で可視化し、題材の最後に自分の思考の流れを確認しながら、題材を通して学んだことをまとめるように指導する。また、授業の最初に前の時間に書いた付箋の内容を確認しながら、次の時間の目標を設定することで制作の見通しを立てられるようにしている。また、題材からの問いを授業の最初と最後に考えて共有する時間を取り、生徒の学びの変容や美術のよさや美しさについて考えを広げている様子を見取る。

○生徒が粘り強さを発揮し、自らの学習を調整するための場面や学習活動の工夫

効果的な表現に向けて試行錯誤しながら粘り強さを発揮する為には、材料の特性を理解することが大切である。その為、スケッチの段階から材料に触れ、材料から生まれる表現に向き合いながら主題を設定することで、粘土や作品の制作活動に苦手意識をもつ生徒に対して、材料を試しながら学ぶことができるようにする。質感や量感など、触れたからこそ学べる“感じ”を体験から学びとり、効果的な表現に向けて試行錯誤する為の知識や技能、表現を身につけることをねらいとしている。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。A表現(1)ア
- ・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。A表現(2)ア
- ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。A表現(2)イ
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。B鑑賞(1)ア(ア)
- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。共通事項(1)ア
- ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。共通事項(1)イ

【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】（※「考えるための技法」はゴシック）

- ・鑑賞活動において、作品に対して造形的な視点だけでなく、生活や他教科の繋がりを考えるなど、**多面的・多角的に見る力**を育むことで、考える力に繋がること。
- ・制作活動の中で、主題に対して**理由つけて**考えたり、**見通し**をもって取り組んだりすること。

